

様式第9号（第5条関係）



令和7年10月17日

南相馬市議会議長

会派名 志政会
代表者氏名 岡崎 義典



調査研究報告書

- 1 期間 令和7年10月14日(火)～10月15日(水)
- 2 参加者 ① 岡崎 義典 ② 鈴木 昌一
③ _____ ④ _____
⑤ _____ ⑥ _____
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

調査研究内容

月日	令和7年10月14日(火)～10月15日(水)
旅行先	神奈川県小田原市
調査研究事項	小田原市立病院の取り組みについて/ 尊徳記念館
〔内容〕 まず、14日に小田原市立病院の取り組みについて視察を行いました。 小田原市は神奈川県西部に位置する県西医療圏に属しています。小田原市立病院はそ の中において救急の中心を担う、救急医療センターを唯一抱える病院であり、地域周産期 母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院として医療圏の中核を 担っています。 事前にお送りした質問に対する回答をいただいた上で、経営改善の取り組みについて 説明をいただきました。 最も素晴らしいと感じたのは、職員（医療、事務ともに）の意識が変わったのが現院長 の就任によるものであったということ。就任が平成28年度の経営改善プラン策定時期に あたり、毎年度、数字で目標を設定し院長が各診療科と面談を実施し、コンサルタントに も入っていただきながら経営の進捗管理を行ったこと。さらに、地域の診療所と顔の見え る関係になるべく、医師と事務方が一緒に診療所を周るそうです。これらの取り組みに よって、医師からこの診療報酬加算を獲得するためにはどうすれば良いか事務方に相談 が寄せられることもあるそうです。つまり、医師が病院経営に高い関心を持つようになったこと。 さらに、事務職員からは「この院長がいるから頑張ろうと思う。」という発言もありま した。 視察終了後の雑談で、「事務職員の皆さんから地域の医療を担っている自信や誇りを感じ ました。」と話したところ、「その自負はあります。」と堂々と答えていました。 南相馬市立総合病院もこのような病院にしたいと感じました。 次に、15日に尊徳記念館に伺い学芸員の方から二宮尊徳の功績と相馬中村藩とのかかわ りについて説明をいただきました。天明、天保の大飢饉により貧困のどん底にあった相馬 中村藩の願いに応じて仕法を行い、相馬中村藩における仕法は大成功した事例であった との話がありました。記念館には、東日本大震災で小田原市にお世話になった相馬市から 寄贈された「報徳記」が展示されていました。 また、小田原市民に二宮尊徳の功績や報徳仕法を伝えるための取り組みについて伺っ たところ、10月20日の命日付近に墓前祭である「尊徳祭」、生誕月である7月には「金 次郎を学ぶ会」が開催されています。	

さらに、市内の小学 4 年生には「尊徳学習」を授業で行い、二宮尊徳の考えや教えを学びます。さらに生涯学習として小田原市民学校の基礎講座にもなっているようです。二宮尊徳は最終的には小田原藩を追われたため、廃藩置県以降徐々にその功績を広める活動が活発になったようですが、尊徳記念館の他にも、生家や一族のお墓、油菜栽培地跡や捨苗栽培地跡、報徳二宮神社などさまざまなゆかりの場所が残っていました。

福島県南相馬市議会 志政会 行政視察

日 時：令和 7 年（2025 年）10 月 14 日（火）

午後 2 から午後 4 時まで

場 所：小田原市立病院

1 調査事項

病院経営について

急性期病院の取り組みについて

2 質疑応答

質問項目

1 経営改善について

驚くべきことにコロナ禍の令和 4 年度に医業収益が黒字に転じていますが、経営改善の取り組みについて教えてください。

2 経営形態について

令和 3 年度から地方公営企業法の全部適用に移行しましたが、全部適用にしたことで変化があった点を教えてください。

3 他の医療機関との連携について

DPC 制度の導入により在院日数は短いと思います。急性期病床のみであることから、他の医療機関への転院がスムーズに行われなければ患者の行き場がなくなります。どのように連携を図っているか教えてください。

4 高齢者救急について

新たな地域医療構想では、医療圏で急性期拠点機能を 1 施設確保し、それ以外が高齢者救急を担うことになっています。理屈は理解するものの、円滑に役割を分けることが可能と考えるのでしょうか。

5 医療人材の確保と定着について

神奈川県は人口に対する医療資源が非常に少ないが、医師や看護師の医療人材の確保や定着についてはどのように取り組んでいるのでしょうか。

6 事務職員について

プロパーの職員を雇用しているのか教えてください。

7 病院機能評価について

本市の総合病院では、緩和ケア病棟開設の要件として受審を検討しています。小田原市立病院が受審しようと考えた理由を教えてください。

8 小田原市立総合医療センターについて

2026 年春から小田原市立総合医療センターを開設するにあたり、小田原市立病院から変更になる点はあるでしょうか。

小田原市立病院への質問

南相馬市議会 志政会 代表 岡崎義典

Q1 経営改善について

驚くべきことにコロナ禍の令和4年度に医業収益が黒字に転じていますが、経営改善の取り組みについて教えてください。

→断らない救急として、救急応需率の向上や、救急車受入台数の向上。また、救命救急センター病床や HCU の増床を行ったことにより、ベットコントロールがよりよくなり病床稼働率も増加。

Q2 経営形態について

令和3年度から地方公営企業法の全部適用に移行しましたが、全部適用にしたことで変化があった点を教えてください。

→大きな変化はない。コロナ禍に、独自の病院職員のみを対象とした手当支給等を行うことができた。まだ課題は多い。

院長のリーダシップ

Q3 他の医療機関との連携について

H28～

DPC 制度の導入により在院日数は短いと思います。急性期病床のみであることから、他の医療機関への転院がスムーズに行われなければ患者の行き場がなくなります。どのように連携を図っているか教えてください。

→ 病棟スクリーニングを毎日実施することで、転院調整を担当する専門職（看護師、ソーシャルワーカー）が早期に患者支援に介入しできるように努めている。また、より円滑な転院調整を実現するために、ソーシャルワーカー連絡会をはじめとした「顔の見える場」に積極的に参加をするほか、地域医療連携システムを活用して、連携機関とスムーズに患者情報のやり取りが実施できる環境を整えている。

Q4 高齢者救急について

新たな地域医療構想では、医療圏で急性期拠点機能を1施設確保し、それ以外が高齢者救急を担うことになっています。理屈は理解するものの、円滑に役割を分けることが可能と考えるのでしょうか。

→ なかなか明確に役割を分担することは難しいと考える。地域性もあり、当圏域は県立病院が1つと他は民間病院。

Q5 医療人材の確保と定着について

神奈川県は人口に対する医療資源が非常に少ないが、医師や看護師の医療人材の確保や定着についてはどのように取り組んでいるのでしょうか。

→ 医師については、県内唯一の医師少数区域となっているが、病院事業管理者による大学医局へのトップセールスの実施や、医局人事で賄いきれない部分について紹介会社を利用するなどして、必要な人材の確保に努めている。

看護師は、看護学生の実習を積極的に受け入れているほか、大学での就職説明会や業者主催の看護フェアへの出展などを実施している。

薬剤師などの医療技術職は、病院実習や見学の受入れ、大学や専門学校への採用情報の提供などを積極的に行っている。

Q6 事務職員について

プロパーの職員を雇用しているのか教えてください。

→ 診療情報管理士についてはプロパー採用している。4人 計45人

Q7 病院機能評価について

本市の総合病院では、緩和ケア病棟開設の要件として受審を検討しています。小田原市立病院が受審しようと考えた理由を教えてください。

→ R4年に受審を再開したが、それ以前にも過去は受審している。過去の理由は不明だが、R4年に受審を再開した要因は、急性期充実体制加算の要件となったため。

Q8 小田原市立総合医療センターについて

2026年春から小田原市立総合医療センターを開設するにあたり、小田原市立病院から変更になる点はあるでしょうか。

→ 新病院になる以外には、特段ない。
(新病院では歯科口腔外科の新設など)

令和6年度実績

	南相馬市立総合病院	小田原市立病院
医師・看護師数	医師38人、看護師153人	医師105人、看護師381人
診療科数	入院13 外来21	入院26 外来32
許可病床	300床	417床
稼働病床数	180床	417床
一般病床の機能別区分と病床数	急性期180床	高度急性期417床
病床稼働率	72.30%	91.00%
年間手術件数	1017件	4682件
平均在院日数	14.6日	11.6日
入院1日平均患者数	157.3人	378.2人
外来1日平均患者数	384.6人	1110.3人
紹介率	39.4%	80.4%
逆紹介率	36.6%	95.0%
二次医療圏における救急受入割合	42.3%	35.0%
医業収益（単位百万円）	4,266	14,299
医業費用（単位百万円）	5,674	14,217
医業収支（単位百万円）	▲1,408	82
経常収益（単位百万円）	5,137	15,726
経常費用（単位百万円）	5,991	14,919
経常収支（単位百万円）	▲854	807
累積収支（単位百万円）	▲856	801

当年度純利益

5839 当年度未処分利益剰余金